（様式６）

１．　第 三 者 評 価 結 果 概 要 表

作成日　平成19年7月24日

【評価実施概要】

事業所番号	2875201192
法人名	有限会社　シリウス
事業所名	グループホームレラティブ別府
所在地	神戸市西区北別府５丁目31-4 （電話）078-975-5888

評価機関名	株式会社H．R．コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6番8-102号		
訪問調査日	平成19年6月4日	評価確定日	平成19年8月1日

「共に生きる、共に笑い、共に泣き、共に喜び、共に悲しみ、共に楽しむ」という理念が職員一人ひとりに浸透しており、入居者を最優先に考え努力しているグループホームである。ホーム独自の食材の仕入れルートから、毎日新鮮な食材を仕入れ、食物繊維を多く取り入れるなど、入居者の食事の楽しみや健康を考えた取り組みが出来ている。

【情報提供票より】　（　18年10月18日事業所記入）

（１）組織概要

開設年月日	平成　15　年　5　月　15　日	
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計　27　人
職員数	20 人	常勤6人・　非常勤14　人，　常勤換算14.2人

（２）建物概要

建物構造	鉄骨　造り
	3 階建ての　1 ～3　階部分

（３）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	55,000　円		その他の経費(月額)	20,000　円
敷　金	有（　円）		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有（　300,000 円） 無		有りの場合 償却の有無	有　／　無
食材料費	朝食	300　円	昼食	400　円
	夕食	円	おやつ	100　円
	または1日当たり	0　円		

（４）利用者の概要　（18年10月18日現在　）

利用者人数		27 名	男性	4 名	女性　23 名
要介護１		4	要介護２	11	
要介護３		8	要介護４	4	
要介護５		0	要支援２	0	
年齢	平均	84.29 歳	最低	68 歳	最高　99 歳

（５）協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団　健裕会　中村医院　　偕生病院

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：第三者4） 評価結果を基に改善できそうな点を話し合い集中して取り組んでいる。食事は仕入れ方法から検討しメニュー内容、量、調理方法まで細かく対応できるように改善した。個別記録を見直し、個人全体が把握しやすいよう整備されている。ホームの様子を伝えるため広報誌を作成し、家族に配布している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：第三者4） 前年度の第三者評価を基に検討し改善策を考え、質の向上に努力している。自己評価は行っていないが、管理者が評価したものを基に各フロアーで検討し、意見を出し合っている。職員一人ひとりが自己評価し、評価の意義を理解し、振り返りや見直しをする機会作りとされる事を検討している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：第三者4，5，6） 家族や市のあんしんすこやかセンターの方・事業所関係者が参加し1回開催、ホームの方向性を説明し、意見交換の機会となった。自治会や民生委員の参加してもらえるよう働きかけは行っている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：第三者7，8） 家族の来訪時に職員から入居者の状態や日頃の様子を伝え、日々の様子や変化など入居者の様子が分かるよう、電話や手書きの手紙・広報誌で家族に報告する取り組みがある。家族の来訪時、職員との会話の中で、意見を聞き、職員からフロア長・管理者などに報告し会議で検討する組織作りが出来ている。検討内容は家族に説明されている。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：第三者3） 外出時に近隣の住民と挨拶や言葉を交わし、地域の小学校や近隣の店との交流はできている。自治会・老人会との交流は実行したいとの思いはあり、自治会長や民生委員への連絡を継続している。

2. 第 三 者 評 価 結 果 票

第三者	自己	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「共に生きる、共に笑い、共に泣き、共に喜び、共に悲しみ、共に楽しむ」という職員と共に作り上げたホームの介護理念を掲げ、日々のケアに取り組んでいる。	○	地域密着型サービスに向けて、職員間で話し合い、地域や利用者・事業所の状況の変化によって理念の検討を行うことが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝夕の申し送りで唱和し意識付けを行い、ホーム内を始め、さりげなくトイレ内にも掲示されており、職員一人ひとりが、具体化していくことを確認する機会となっている。職員の中にも「共に生きる」という理念が浸透しており、「寄り添う姿勢」に変化が現れている。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	外出時に近隣の住民と、挨拶や言葉を交わす機会がある。地域の小学校の行事に参加したり、来てもらったりして子ども達との交流はできている。自治会・老人会との交流を持つために自治会長や民生委員への連絡を継続している。広報活動や運営推進会議の開催などを通して事業所の情報開示をし、ホームを理解してもらう取り組みを増やすことを検討している。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を質の向上に活かしていくために前年度の第三者評価を基に改善策を考え、評価を活かした取り組みを行っている。自己評価は管理者が評価したものを基に各フロアーで検討する機会を持ち、質の向上につなげる取り組みを行っている。	○	職員一人ひとりが自己評価し、評価の意義を理解し、振り返りや見直しをする機会作りが望まれる。運営推進会議で自己評価や第三者評価を公表し、評価への取り組みについて話し合い、ホームの質の向上に活かされる事を期待する。

第三者	自己	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、家族や市のあんしんすこやかセンターの方・事業所関係者が参加し1回開催している。自治会や民生委員に参加してもらえるよう働きかけは出来ている。運営推進会議はホームの方向性を説明し、意見交換の機会となった。	○	運営推進会議の意義や役割を繰り返し説明し、幅広い立場の人が参加し意見交換できる会議となる取り組みが望ましい。また、自己評価・第三者評価の結果を公表し改善点などの積極的に意見交換し、サービス改善に取り組むことも望まれる。
6	9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域のグループホーム連絡会開催時に市のあんしんすこやかセンターの方の参加もあり、市との関係作りに積極的な姿勢が伺え、情報交換・協力関係ができている。入居者の担当ケースワーカーとの連携も取れている。	○	ホームの理解をも深める為にも広報誌を定期的に作成し地域にも配布する取り組みが望ましい。
4．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に職員から入居者の状態や日頃の様子を伝えるよう努力している。月1回、日々の様子や変化など居者の様子が分かるよう、手書きの手紙で家族に報告する取り組みがある。職員が家族に電話で報告するだけでなく、本人が直接話ができ、家族が安心できる配慮がなされている。広報誌を作成し、ホーム内での様子を分かりやすく伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪機会が増え、面会時の職員と家族の会話の中から、家族の意見等を聴く機会が増えてきている。家族からの意見は職員からフロア長・管理者などに報告し会議で検討する組織作りが出来ている。検討内容は家族に説明されている。	○	家族から意見・要望を聴く体制を整えるため、家族会が開催できるようサポートしていく事を検討中である。

第三者	自己	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設4年目であり、職員の移動は必要以上に行わないよう配慮されている。やむなく移動した場合には、本人及び家族にも説明し、不安を最小限にするよう配慮がされている。フリー業務の職員を配置し、全フロアーを行き来し、日頃より入居者にかかわり、必要時にはサポートできる体制を取っている。	○	利用者や家族にとってダメージを最小限にする取り組みは今後も期待する。
5．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	「働きながら技術を身につけていく」事を重視し、職員の経験年数や力量に合わせ内部研修・外部研修問わず受けられるよう支援している。研修報告書にて報告するよう改善している。	○	年間計画を立てる必要性を理解し、効率よく学習ができ、レベルアップが図るれる取り組みを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡会に参加し、ネットワーク作りが行えている。他のホームへの見学の機会もある。職員間で交流を持つ事の大切さは話し合われているが実現していない。	○	今後は職員間で交流が出来るように考えている最中である。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 **1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前より見学や相談が出来る体制にある。体験入居もでき、不安なく入所が出来るよう配慮している。現在はデイサービスやショートステイは行っていない。入居の相談に応じ、ホームに空き予定がなく利用が急がれる場合には、他のホームの空き情報を提供し調整を図っている。		

第三者	自己	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	「共に生きる」と言う理念の基に、入居者の生活歴を尊重し、発言や表現を大切にしたかかわりを持つようにしている。入居者の尊厳を大切に出来るよう職員間でお互いに注意しあっている。入居者の表情も明るく、職員とのかかわりも多い。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント **1．一人ひとりの把握**					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に生活歴や本人及び家族の意向を確認し、日中のスケジュールに取り込んでいる。意思疎通が困難な場合でも、家族からの情報を基に日頃より希望の表出が出来る機会を作り、非言語コミュニケーションを大切にし意向を汲み取るよう努力している。	○	日頃より希望の表出が出来る機会を作り、入居者に関心を持って観察し、「本人はどうか」と常に考え、話し合う機会作りを期待する。
2．より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	入居時に入居者や家族の意見を聞き、ケース記録やアセスメントシート・フェイスシートを基に介護計画が立案されている。カンファレンスを開き、職員間で話し合っている。	○	全家族や入居者・入居者をよく知る関係者が意見を言いやすい工夫が出来、意向やアイデアを反映させる取り組みが期待される。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	３ヶ月に１回介護計画の見直しが行われている。必要に応じカンファレンスも行い、検討もしている。面会時などに家族に意見を聞き、介護計画の説明も行っている。	○	介護計画に沿った実施記録が書けるよう検討し、記録を基に１ヶ月に1回介護計画の検討・見直しが出来ることが望ましい。

第三者	自己	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
3．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	認知症対応型通所介護、短期利用型共同生活介護、医療連携体制加算は現在は行っていない。入居相談や介護相談には応じており、馴染みの関係を築き、柔軟な対応ができるよう努力している。入居者が重症化した場合に訪問看護を利用し出来る限り入院が回避できるよう支援している。入院中の洗濯などの支援も行っている。		
4．より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や入居者の希望により、かかりつけ医に定期的に受診している。職員が付き添うか、家族がいけない場合には職員が付き添う体勢がある。受診内容は家族にも伝え、職員間でも情報を共有している。提携医とは、２４時間体制で相談できる。日頃より入居者の状態を充分把握していただけるよう情報を提供するなどの関係を築いている。家族にも信頼を得ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に家族の意向を聞いたり、主治医の意見を聞くなど終末期の介護について話し合っているが、職員間に終末期介護に対する不安もあり実現には至っていない。	○	ホームとしての取り組んでいる姿勢、出来る範囲を明確にすることが望ましい。終末期介護は、家族や職員の意識調査を行いながら、繰り返し話し合う機会を作られる事を期待する。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **1．その人らしい暮らしの支援** (1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	契約書や運営規定に明記し、入居時に家族や入居者に説明し同意を得ている。職員は入居者一人ひとりの尊厳を大切にし、プライバシーに配慮した対応を心掛けている。朝の申し送りなどでお互いが意識できるよう声を掛け合っている。名前の呼び方などにも家族の同意を得るなど配慮している。	○	個人情報保護法やプライバシー確保の理解を深めるために研修の機会を持たれることを期待する。

第三者	自己	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「入居者の思いを最優先に」との考えの下でホームのスケジュールは決めていない。その日その時にしたいことを入居者自身で選択し実現できるよう配慮している。	○	入居者を最優先に考えるという事を、職員全員が行えるよう、繰り返し勉強会を行い、徹底を図られることを期待する。
⑵その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は一括購入されるため買い物には行かないが、調理や野菜の下ごしらえ・食事準備・後片付けなどを出来る方が職員と一緒になって行っている。職員も一緒に同じ食事を食べ、さりげなくサポートできている。同じ食材でも、入居者の好みや状態に合わせ、フロアーごとに調理方法を変えるなどの対応もできており食事の時間が楽しくおいしいものになるよう工夫がある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夕方５時までは入居者の希望に合わせて、個別に対応している。入浴が嫌いな入居者に対しても、清潔が保持できるよう声をかけ、週２回は入浴が出来るよう働きかけている。入浴介助は同性職員が対応し、羞恥心への配慮がなされている。夜間入浴は安全性を配慮し行っていないが、便汚染などで必要なときには夜間でも職員の応援を依頼して入浴を行っている。		
⑶その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	配膳や食器洗い・洗濯物たたみ・掃除・ペンキ塗りなど入居者が力を発揮できる場面作りを行っている。入居前の特技を活かし、ラジオ体操や囲碁を指導する入居者もあり、一人ひとりにあった役割を把握し、支援している。		

第三者	自己	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣の公園への散歩やファミリーレストラン・衣服の買い物等は職員と共に行く機会がある。季節ごとの行事としての外出も実施されている。家族が衣服を購入して持参せず、入居者自身で選び購入が出来るような取り組みを職員から家族に提案し、理解を得ている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害を理解しており、１階に事務所を移動し１階のオートロックは解除し、玄関と共に開放している。出て行く気配を職員が見落とさない見守りができるよう配慮している。２階３階に関しては建物の構造上、安全を配慮し施錠しているが入居者から外出の希望がある場合は、出来る限り対応するようにしている。施錠については、家族にも同意を得ている。	○	2階、3階の施錠を開放できないか常に検討・模索している。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防の訓練は年２回行っている。１回は利用者が参加して行われている。非常食や水も確保されている。	○	非常・災害時に地域の協力を得られるような体制作りを検討中である。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ホーム独自の食材の仕入れルートを確保し、食物繊維を多く取り入れ、管理栄養士に食事量やバランスをチェックしてもらえる体制作りが出来ている。水分補給は自由に出来るよう準備されており、水分補給が少ない人にはお茶の時間に飲むよう促すなど１日の摂取量を把握できている。「残しているから嫌いだろう」と考えず、何故残しているのかを検討する姿勢がある。利用者の意向により調理法を工夫したり、食材を変更するなどの対応が出来ている。また、職員が食事の残量や食べ方を観察し、メニューに活かすなど迅速な対応ができている。		

第三者	自己	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事の写真などは入居者の目の高さに表示するよう工夫が出来ている。生活の中で感じる音、食事の色彩や香り、会話など五感の刺激も大切にし、居心地のよいものとなるよう配慮している。限られた空間の中でもいすを置くなどの工夫をしており、庭のテーブルを含め一人になれる空間つくりができている。また、１階に事務所を移す事で、入居者が外出時など気軽に立ち寄る空間となり、自分なりの活動がしやすい工夫が出来ている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた表札や暖簾・仏壇・家具を持ち込み、なじみの空間となるよう工夫されている。居室の名札は必要な人に限定しており、廊下からも見やすい位置に掲示し混乱をふせぐように配慮している。		

※ ▒ は、重点項目。